

平成 27 年度

しのはらひがしいせきぐん  
**篠原東遺跡群現地説明会資料** No. 4



館を守る堀の跡（O地区出土・戦国時代）

日時

平成 28 年 3 月 5 日（土）10：00～

場所

前原東土地区画整理事業地内（伊都の杜）

糸島市教育委員会

## 1. はじめに

篠原東遺跡群の発掘調査は、前原東土地区画整理事業に伴って実施しており、今年で4年目を迎えました。今回の現地説明会は、平成25年度から継続して行っている戦国時代の居館跡きょかんあとの最終調査地点を公開します。

## 2. 調査の内容

今年度の調査では、過去の2か年の調査で確認されていた15世紀後半～16世紀前半の居館跡(居館1)の北西角が確認され、館のほぼ全容が明らかとなりました(第2図)。また、この調査区では、新たな堀が検出されており、別の居館(居館2)が北側に隣接していた可能性が出てきました。

古い地籍図によると、居館1のすぐ北側に接して方形状の区画があることが分かります(第3図)。これを居館2の範囲とすると、居館1よりも少し規模が大きい館が想定できます。さらに、地籍図に目を落とすと、北側に規模は小さいものの方形状の区画が見え、これも居館の可能性が考えられます(居館?)。以上のことから類推すると周辺には数基の居館があった可能性が高いといえます。

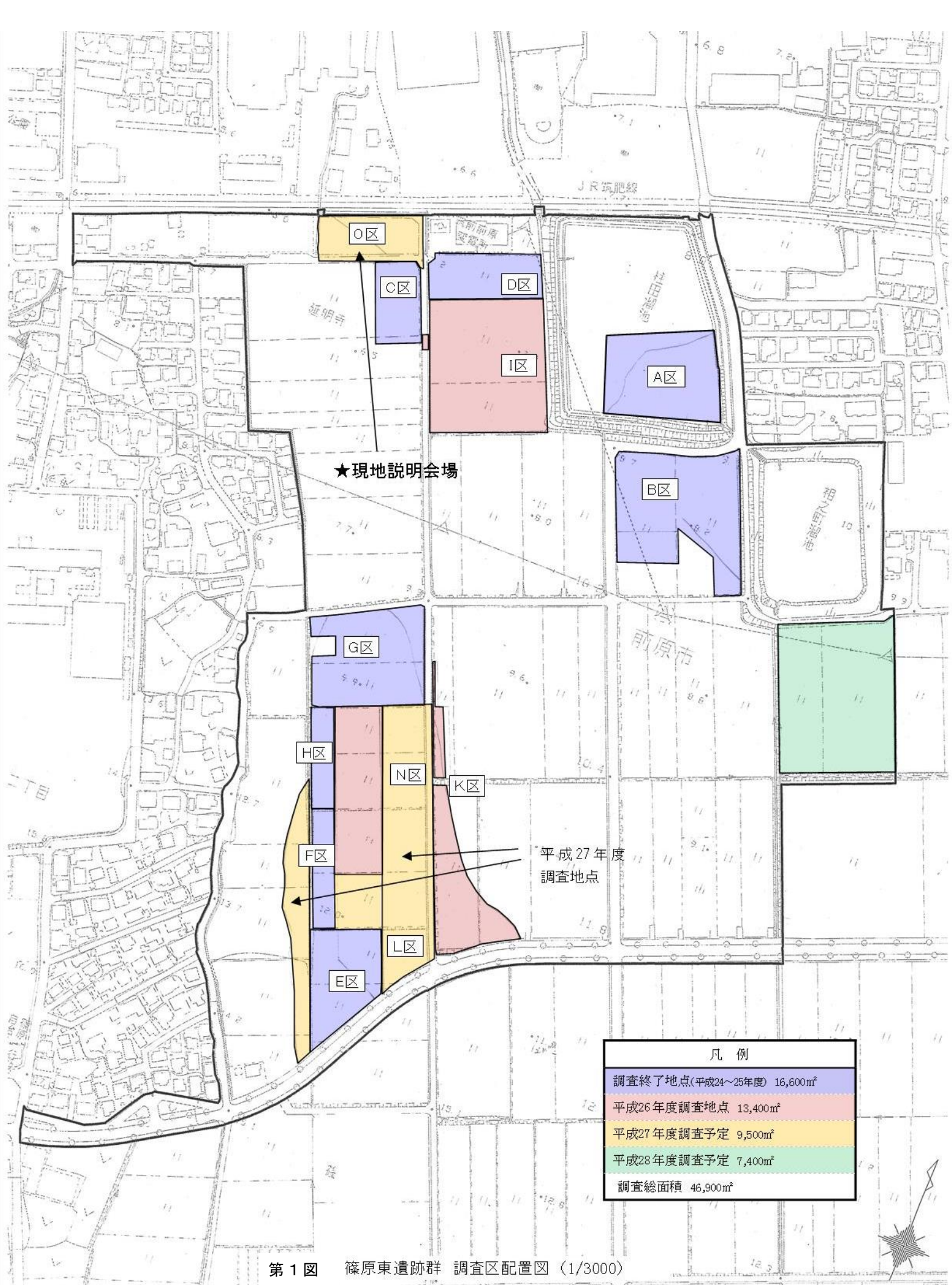
居館1の規模は約75×65mで、一部三重の堀に囲まれています。堀の内側にはかつて土塁どるいがあったと考えられ、調査区の北の端では、土塁が崩落した痕跡がみられます。堀の中からは、鬼瓦を始め、足鍋あしなべや土師皿はじざらなどの土器類、櫛くしや下駄げたなどの木器類、漆器類しっき、木簡もっかんなどが出土しました。なお、居館2は、居館1と一部の溝を共有しているため、同時期にあったと考えられます。

## 3. おわりに

『糸島郡誌』によると周辺には居館跡の伝承地※が点在しており、発掘調査の結果と地籍図も併せて考えるとこの地には複数の武士の館が集まっていた可能性があります。現在糸島高校のある台地上にはかつて、「繫城つなぎのしろ」があったといわれています。居館(群)は戦時において、この城の東側を守る砦として機能していたと考えられます。

※波多江氏宅跡(篠原の北二町五町分と云ふ所にあり、今畑となる)

浦志孫右衛門宅跡(浦志射場にあり。堀切二重残れり。宅跡の広さ一反歩以上、今は畑となれり。)



第1図 篠原東遺跡群 調査区配置図 (1/3000)

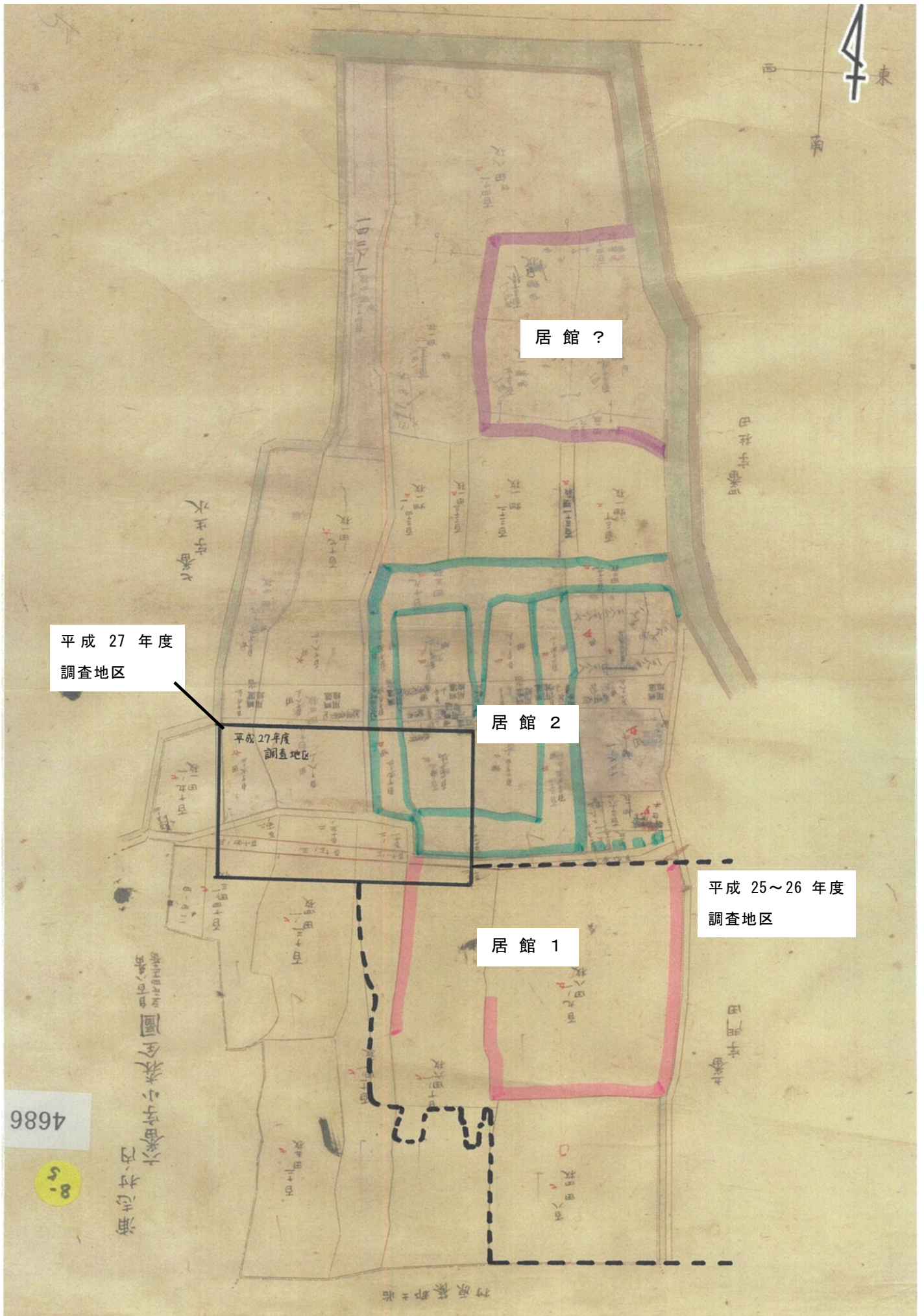




第2図 篠原東遺跡群C, D, I, O区 合成図

(1/600)





第 3 図 篠原東遺跡群周辺の旧地籍図





堀のコーナー部分



堀の中から鬼瓦と土器が出土したようす



鬼瓦



櫛

現地説明会資料は後日、糸島市文化課のホームページ内にて公開する予定です。また、以前行った第1～3回目の資料のデータもあります。

カラー写真にて掲載しておりますので、ぜひ、ご利用ください。

HPアドレス

<https://www.city.itoshima.lg.jp/soshiki/33/>